

里山ってどんな場所？

マザーレイク

「Mother Lake ～母なる湖～」とよばれる琵琶湖の

水を育てているのは、^{しがけん}滋賀県を取り囲むようにひろがる

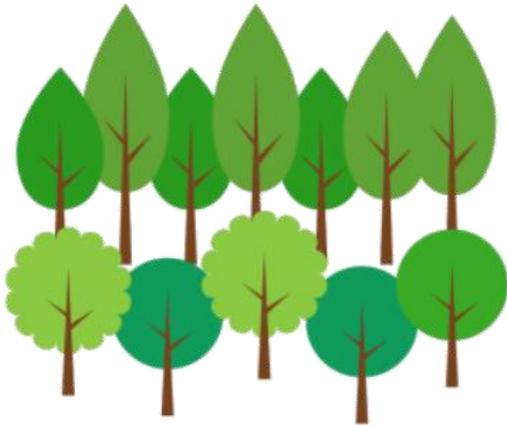
山々（森林）です。^{めんせき}琵琶湖の面積が滋賀県の1/6で

あるのに対し、森林の面積は1/2におよびます。山々から

^わ湧き出す水は450本もの川となって琵琶湖に流れ込みます。

滋賀の森林は^{ファザーフォレスト}「Father Forest ～父なる森～」ともよばれます。

約2,000km²



674km²



Mother Lake
母なる湖
滋賀県の1/6

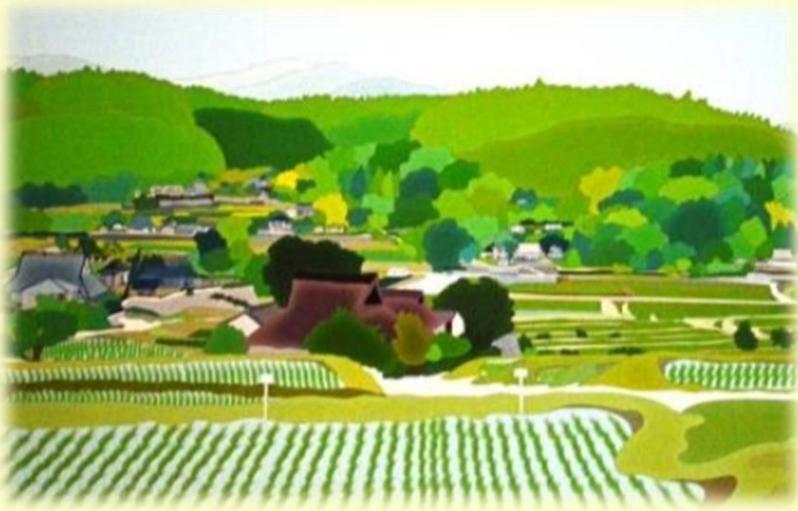
Father Forest
父なる森
滋賀県の1/2

里山ってどんな場所？

森林のうち、昔から人々が暮らしてきた集落の近くにあり、人との深いかかわりの中で維持されてきた場所を「里山」とよびます。昔の人々は生きていくために、「自然のめぐみ」を効率的に、また継続的に得ることができるよう、自然の仕組みをいかしながら手を加えてきました。

琵琶湖のまわりに水田が作られ始めたのは弥生時代といわれていますが、お米を作るために必要な水を得るためのため池や水路が作られました。また、集落のまわりの林では燃料を得るために木を切ったり、肥料となる落ち葉を集めたりしました。ヨシやススキなどは刈り取って、屋根の材料になりました。

人々は身近な自然に日常的に関わりながら、そのめぐみを得て暮らしていました。



お米をつくる「水田」

水をつかうための「水路」や「ため池」

肥料や燃料を手に入れるための「林」

屋根をふくヨシやススキをとるための「茅場」

これらをまとめて「里地・里山」とよびます



里山ってどんな場所？

昭和30年頃の里山の暮らし



兵庫県丹波市が作成した里山学習冊子「丹場の自然と暮らし」より
<https://www.city.tamba.lg.jp/uploaded/attachment/47287.pdf>

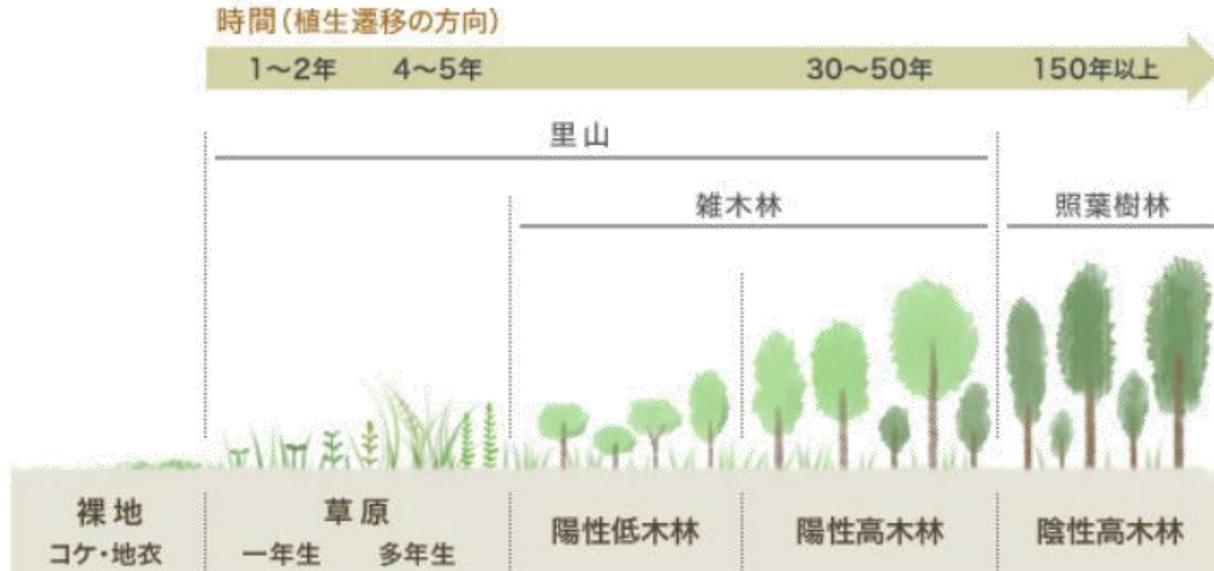
里山ってどんな場所？

人が生きていくために自然に働きかけることは、いきものにとっても思わぬ効果を生まれました。

自然は放っておくと、だんだんと草におおわれ、やがて林になっていきます（遷移といいます）。

里山では人の暮らしを通じてその流れを止め、水田、水路、雑木林、茅場といったさまざまな環境が維持されることにより、多様ないきものがくらすことができる環境がうまれました。

「自然」と「人間」が対立することなく、「共生」の仕組みを生み出してきたことは日本の「里山」の大きな特徴であり、日本の自然の象徴ともいえるべき場所です。



私の森.jp ホームページより転載

里山ってどんな場所？

しかし私たちの生活は大きく変化し、調理や暖房に利用していた薪や炭は石油などの化石燃料に、
落ち葉などの堆肥は化学肥料へと変わり、里山との暮らしを通じたつながりはうすれていきました。
また水田では、効率的なお米の生産を優先した工事が行われた結果、本来の自然のつながりや
仕組みとは大きく違う環境になりました。一方で、担い手の不足などの理由による耕作放棄地も増え
ました。いきものの進化をはぐくんだ地球の長い歴史から見れば「まばたき」ほどの短い時間に、
かつてない急激な変化が里山にもたらされ、その変化についていけない生きものは減っていきました。

“水田”のまわりの大きな変化



かいしゅう
水路の改修



ほじょうせいび
圃場整備



かいしゅう
ため池の改修



しんにゅう
外来種の侵入

里山ってどんな場所？

かんきょうしょう

ぜつめつ

けいさい

環境省が2020年に発表したレッドリストには、3,716種の絶滅が心配される動植物が掲載されて

います。この中でも「里山」に暮らすいきものや淡水魚について、特に危機的な状況が明らかになり

ました。

日本の絶滅危惧種(環境省レッドリスト2020)

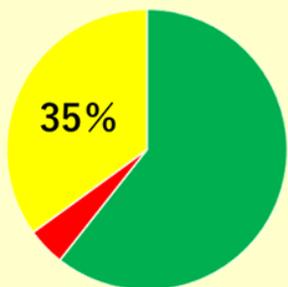


メダカ(絶滅危惧Ⅱ類)

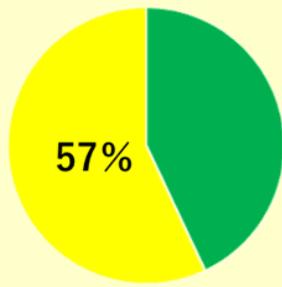


アカハライモリ
(準絶滅危惧)

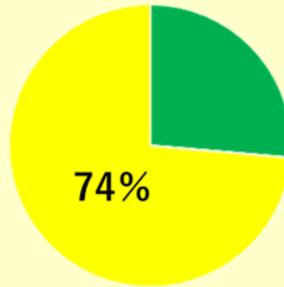
	評価対象種 (A)	絶滅 野生絶滅	絶滅危惧種 (B)	絶滅危惧種の 割合
1. 哺乳類	160	7	56	35.0
2. 爬虫類	100	0	57	57.0
3. 両生類	91	0	67	73.6
4. 汽水・淡水魚類	400	4	241	60.3
5. 淡水貝類	3,200	19	1,158	36.2
6. 維管束植物	7,000	28	3,293	47.0



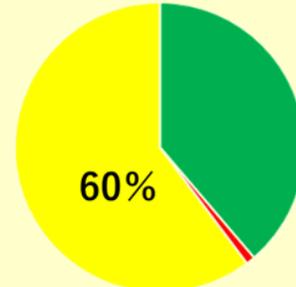
1. 哺乳類



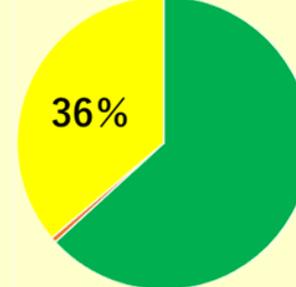
2. 爬虫類



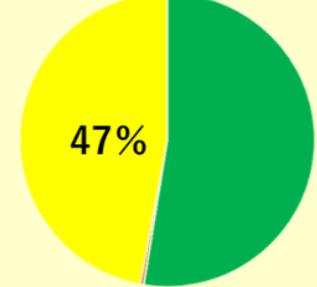
3. 両生類



4. 汽水・淡水魚類



5. 淡水貝類



6. 植物

里山ってどんな場所？

里山のいきものたちは、ほんの少し前まで私たちの身近に暮らし、もっとも「当たり前」にみられたいきものでした。今、人間の活動の影響^{えいきょう}によって世界中で多くのいきものたちが絶滅^{ぜつめつ}の危機にさらさ

れていますが、日本ではその要因の1つとして 自然に対する働きかけの減少による危機=里山の質の

低下があげられています。人と自然の共生のシステムをどのように再生し、未来に引き継いでいくのか。

里山との新たな関係づくりが急がれています。

「カエル」が伝えるメッセージ ～自然を読み解く目を持つ～

「田んぼのいきもの」といえば「カエル」を思い出す人も多いと思います。本州の平野部の水田には5～6種類のカエルがくらしています。増えているカエルもいれば、近い将来絶滅が心配されるカエルもあります。なぜそんな違いが生まれるのでしょうか？ それは、それぞれの体の形や暮らし方に違いがあるからです。カエルの種類を調べると、水田のいきものの豊かさや自然の豊かさがわかるともいわれています。みなさんの家の近くの田んぼには、どんなカエルが暮らしていますか？ ぜひ観察してみてください。

たとえば・・・



ナゴヤダルマガエル
(絶滅危惧IB類)

今の水田では
暮らしづらい

一年中水辺で暮らしている
ので、乾いた田んぼは苦手。
吸盤がないので、コンクリー
ト水路に落ちると上がれま
せん。



ニホンアマガエル

近代化された
水田でもok!

乾燥に比較的強い。
4月～6月に水田に卵を産む。
産卵期以外は草むらなどで
暮らしている。
吸盤があるので、コンクリー
ト水路ものぼれます。



ウシガエル
(特定外来生物)

他のカエルを
へらしてしまう

在来種のカエルの10倍以上
の卵を産む。他のカエルや昆
虫など、小動物をなんでも食
べる。